

令和6年度 学校評価書(共通) 前期

校名 宇和島市立番城小学校

1 自己評価書

教育目標	自他を大切に、ともに考え解決して児童を育てる					
基本方針	○ 家庭・地域とともにある学校づくりに努める ○ 児童の自尊感情・自己有用感の醸成に努める					
本年度重点目標	1 社会総がかりで取り組む教育の推進 2 確かな学力を育てる教育の推進 3 豊かな心、健やかな体を育てる教育の推進 4 安全・安心な教育環境の整備 5 互いの人権を尊重する教育の推進と児童の健全育成					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析により成果と課題を把握するとともに、「身に付けさせたい力」の明確化を図り、組織的に推進することができた。 ・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施	A B	後期のみのみ	
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。 ・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B C A	B	
			ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。 ・教師アンケート ・児童生徒アンケート	B B		
			一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。 ・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C C B		
	③	家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等) ・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B B	B	
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。 ・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C C B	C	
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。 ・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C D B	C	
	(成果と課題) ○めあて(ねらい)を明確にし、振り返りの時間を確保することで、児童の学習意欲が向上する場面が見られた。 ○家庭学習の習慣を身に付けさせるために、学級担任それぞれが工夫し、家庭学習強調週間を中心として、家庭との連携も図れている。 ●学力の定着に課題を抱えている児童が一部いる。全体的な学力向上を図るためには、より個別最適な学びをさせるための工夫が必要である。 ●朝読書への取り組み方(本の選択)や授業と関連させた読書(並行読書など)のさせ方、図書室の活用に工夫が必要である。 ●ふるさと学習やESDへの取組を十分に行う時間の確保が難しい。					
	(改善策等) 授業改善 ・学習内容の定着を図るために、学習コンテンツやAI等のICTを積極的に活用しつつ個別最適な学びをより推進する。 ・教師の指導が「教えたつもり」、児童の学習理解が「分かったつもり」とならないよう、授業改善や家庭学習の工夫を図る。 ふるさと学習 ・生活科や総合的な学習の年間指導計画に合わせて地域学校協働活動推進員と連携を図り、ゲストティーチャーを招くなど学習内容の工夫を行う。					
	評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。 ・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A C A	B	
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。 ・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A B A	A	
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。 ・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	A A C		
			いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。 ・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	A A C		
	③	関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。 ・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	A B C	B	
	④	自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。 ・教師アンケート ・児童アンケート	A B	B	
			自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。 ・教師アンケート ・児童アンケート	A B		

<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導主事が中心となって積極的な生徒指導を行い、教職員の共通理解の下、規範意識を高める指導を行うことができた。 ●規範意識が低い児童や不登校傾向の児童が一部いるため、継続的な指導、見守りが必要である。 ●学校の取組が保護者の理解へとつながっていない。
<p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の小さな変化を見逃さず、積極的な生徒指導を行う。 ・児童生徒の健全育成に向けた取組を、学校だよりやホームページなどで積極的に保護者へ発信する。

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	① ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指すために、教職員の働き方の意識改革に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B B	B
	② 働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。(枠を移動しました。)	・教師アンケート	A	A
		休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	A	A
③ 他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	B	B	
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○効率よく仕事をこなそうとする意識は高まっている。 ○温かく働きやすい職場だと感じている教員が多い。 ●意識はしているが、業務が多く、効率的にこなすことができていない。 ●ほかの教員も多忙なため、業務を割り振りにくい時がある。 ●ブランクの時間とスクールサポートスタッフや学校協働活動推進員の勤務時間が合わず、打ち合わせをしたり、依頼内容をしっかりと説明したりする時間が取れない時がある。 <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の意見を積極的に取り入れ、小さなことでも目に見える業務改善・負担軽減を図る。 ・ICTやAIを積極的に活用し、業務の軽減、改善、精選を行う。 ・スクールサポートスタッフや学校協働活動推進員への依頼方法の見直しを行うとともに、ゆとりある依頼ができるように活動に見直しを持つ。 					

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	① 学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	A	A
		学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議によって地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	A	
			・保護者アンケート ・地域アンケート	C A	
② 情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	A A A	A	
③ 来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	A C A	A	
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校からの情報発信は、効果的に行っている。 ●学校運営協議会や地域学校協働活動の認知がまだ十分ではない。 ●電話や保護者対応は誠意を持って行っているつもりだが、保護者には十分に伝わっていない。 <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の議事録を、教職員に配付したり、保護者に対して学校だより等の記事として掲載したりするなどし、活動内容について周知を図る。 ・児童の後ろには保護者がいることを念頭に、保護者や地域の方へより丁寧に細やかな対応を行う。 					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満